

勝瑞発掘だより ～お歯黒壺の巻～ 平成20年度 巻四

お歯黒は主に女性が歯を黒くコーティングした化粧の一種で、虫歯予防にもなっていたようです。時代劇などで見たことのある人もいてはるのでは？

日本では、お歯黒が古墳時代から行われていたとも、飛鳥時代から行われていたともされます。勝瑞城館跡の主たる時代の戦国期には、武士の娘が8～9歳になるとお歯黒を付け始める習わしがあったともいわれています。

お歯黒は鉄漿水(かねみず)と五倍子粉(ふしこ)からなります。

鉄漿水は、粥(かゆ)+麴(こうじ)+鉄屑(てつくず)をお歯黒壺に入れ、温め醗酵(はっこう)させたものです。主な成分は酢酸第一鉄で、悪臭ただよものだそうです。

五倍子粉は、ぬるで(漆科)という木の幹を虫が刺したことにより樹液が流れ出て、それが乾燥したものを蒸して粉にしたもので、タンニン(渋)を約60%含んだ黄色の粉末です。

五倍子粉と鉄漿水を交互に房楊枝(箸状のブラシのようなもの)につけ、歯に塗っていったそうです。

勝瑞出土のお歯黒壺

勝瑞でも、何点かのお歯黒壺と思われるものが出土しています。

備前焼の雀口(片口壺)といわれている器種で、今年度の調査でも上部が欠損しているものが出土しています。出土した雀口の中には土が入っていて、それを取り除くと、底部に鉄分が沈着しており、スラグや鉄滓(てっさい)と呼ばれる鉄屑や錆びた鉄なども入っていました。完形ではないので内容物が鉄漿水に関連するものかどうかは不確かですが。



過去の調査で出土した完形の雀口(備前焼) 生そばの麵つゆ容れのようなサイズと形状です。

今年度の調査で出土した雀口(備前焼)。左が外形で、右は内部を撮影したもの。鉄分が底にくっついています。いままでに出土したものにも同様のものが見られます。400年以上前の鉄漿水が残っている？勝瑞館に暮らした美女？が使っていたのかも.....

閑話休題



勝瑞の歴史を彩る女性たちとしては、実在したかどうかは、わかりませんが、傾城の美女・小少将が有名ですが、その他にも長宗我部が攻め入った折に、勝瑞で三好長治の妻が殺されたとの伝承があります。現在は、合したためありませんが、亡くなった地には、以前、若宮神社があり祭神を「長治室」と記す本もみられます(長治は1577年に内乱で自害し、長曾我部の軍勢が勝瑞に攻め込むのは5年後の1582年)。



勝瑞出土の銅鏡

勝瑞では、銅鏡も出土しています。この鏡で歯を映しながらお歯黒を塗ったのでしょうか？



人間の顎骨

この骨に関しては男性か女性かわかっていません。ただ、お歯黒は女性だけのものではなく男性でもしていた人がいるそうです。



黒い歯 犬の頭蓋骨

お歯黒は、江戸時代が終わり明治に入ると、明治元年にお歯黒をしなくてもよいとの太政官令が出され、明治3年に今後成人する華族の者への禁止令が出され衰退していきます。ただ、大正時代には、お歯黒をしている人がまだ見受けられたそうなので、お年寄りに話を聞いてみると、ご存知の方もいらっしゃるかもしれません。私の曾祖母もお歯黒をしていたようです。



耳のついた壺？

勝瑞出土の耳がついた壺。上部のみ出土していて、これ自体はお歯黒壺ではないのですが、江戸中期頃からお歯黒壺は、耳がついたものになるようです。

～閑話休題・巻①～『おあむ物語』

勝瑞の館でお歯黒がされていた時代より少し後となる、関ヶ原の合戦(1600年)直後のお話。おあむは、石田三成の家臣だった父らと大垣(おおがき)に籠城(ろうじょう)していて、徳川方の攻撃を受けます。城にいた女性たちは、天守閣に集まり鉄砲玉を鑄(い)たりしました。また味方の武士が取ってきた頸(くび)が天守閣に集められ、それぞれ札が付けられていました。身分のある者はお歯黒を付けていたので、白歯の頸があったら、みんなでお歯黒をつけたと言われていました。

～閑話休題・巻②～

勝瑞では人骨も出土していますが、はっきりとお歯黒を塗っているとわかる歯は見られません。ただ、出土している犬の歯はお歯黒を塗ったかのように、真っ黒.....

参考文献

『口腔衛生予防がわかる お歯黒のはなし』
著者 山賀禮一 発行 ゼニス出版
『日本の歴史/戦国時代 戦国の活力』
著者 山田邦明 発行 小学館

問い合わせ先

藍住町教育委員会 社会教育課

勝瑞発掘現場事務所

TEL・FAX (088) 641-3466

URL: <http://www15.ocn.ne.jp/~shouzui/>

E-mail: syugomachishouzui@air.ocn.ne.jp

